

第31回（令和元年度）読書感想画県コンクールの入賞について

石橋 蓮さん（A1）優良賞受賞

感想画題名 「可能性」

『獅子座の君へ』鏡リュウジ著
（サンクチュアリ出版）

校内コンクールでは54作品出品され、その中の4作品が県コンクールに出品されました。県内86作品の中からの入賞です。

石橋 蓮さん おめでとうございます。



さて、今年度本校に赴任してこられた先生方による本校生におすすめの本の紹介第4弾です。

沖野 彪 先生のおすすめ本です。

『下町ロケット』ヤタガラス 池井戸 潤 著（小学館）（購入予定）

この本は、宇宙科学開発機構の研究員だった佃航平が、死んだ父の経営していた中小企業「佃製作所」の社長となり、社員たちと共に奮闘する姿を描いた作品です。一言でいうと、少年ジャンプの社会人バージョン。わかりやすい対立構造、裏切り、協力、夢に努力に勝利。面白さの要素すべてが詰まっていると言っても過言ではありません。

私の好きなセリフに「俺はな、仕事っていうのは、二階建ての家みたいなもんだと思う。一階部分は、飯を食うためだ。必要な金を稼ぎ、生活していくために働く。だけど、それだけじゃ窮屈だ。だから、仕事には夢がなきゃならないと思う。それが二階部分だ。夢だけ追っかけても飯を食っていけないし、飯だけ食っても夢がなきゃつまらない。」というものがあります。人の生き方について、しっかり考えられる作品となっています。是非、読んでみてください。

藤原 法子 先生のおすすめ本です。

『ベッキーの心のとびら』ベッキー著（幻冬舎）（購入予定）

この本に出会ったのは私が高校生の時です。たまたま本屋さんに行った際に、内容に惹かれて購入しました。この本に出会ってから自分の毎日の生活や物事に対する考え方ががらりと変わりました。幸せの感じ方や、笑顔の大切さ、つらいことに対する乗り越え方などベッキーさんの言葉で書いてあり、人生においてとても大切なことが書いてあると感じました。ぜひみなさんも読んでみてください！！

中島 尚子 先生のおすすめ本です。

『そして、バトンは渡された』瀬尾まいこ著（文藝春秋）（図書館にあり）

本屋さんで何かよい本がないかなあと見ていたときに、「2019年本屋大賞」と帯がつい

た、表紙の絵もタイトルもインパクトあるこの本が目にとまりました。

3人の父と2人の母に次々と育てられる主人公の優子の環境はとて複雑だけれども、関わる大人たちは、大家さんや先生も含めて皆素敵です。優子と最後の育ての父親となる森宮さんの食事のシーンがとっても和やかでいつも満腹で、幸せな様子がよく伝わってきます。

2番目の母、梨花さんが、3番目の父となるよう森宮さんを口説き落としたセリフ「自分の明日と、自分よりたくさんの可能性と未来を含んだ明日が、やってくる。親になるって、未来が二倍以上になることだよ」。私は、今、親の立場で、その言葉が心に染みました。

わが娘（5歳）が、運動会で「一輪車」に乗られるようになりたいと言うから、週末は家族みんなで特訓して、一人で乗られるようになった時の感動。運動会当日、いよいよ一輪車。「がんばれ！」とこぶしを握り締めて見守る私の隣で、同じ思いのたくさんの親御さんの姿がありました。

高校生の皆さんなら、優子の立場で、優子の思いを感じながら読んでいけるとと思います。

10年後、20年後たったときに、やっぱり今の自分があるのは、関わってくれた人たちのおかげなんだなと思えます。ついでに、嫌なところも似ちゃうんですけどね！私も、食事の味付けも、子どもへの叱り方も、自分の親と似てるなと思えますもん（笑）。

ぜひ、読んでみてくださいね。おすすめです！

※紹介された本をすでに読んだ生徒・教職員・保護者の皆さんは、ぜひ紹介の先生・図書部にお話いただくと喜びます。

～ ● ● ● ～ 図書館点描 ～ ● ● ● ～



当番活動

委員会展示コーナー



ポスターセッション



LHR (Book de しりとり)



図書委員長交代



展示「G科課題研究」



益田市感想文表彰式



感想画校内コンクール

